

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和5年度7月号

#### ○ 概要

- (1) 令和5年度7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,869億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,208円（伸び率+1.1%）であった。（→P.1,2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が1,877億円（伸び率+6.2%）、薬剤料が4,978億円（伸び率+8.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が946億円（伸び率+4.8%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,308円（伸び率+1.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率+1.6%）、26.7日（伸び率▲3.9%）、72円（伸び率+4.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,959億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+307億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の722億円（伸び幅+46億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+239億円（総額362億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,959 億円 (+307 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(722 億円)	21 循環器官用薬 (563 億円)	11 中枢神経系用薬 (537 億円)
0歳以上 5歳未満	21.4 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (6.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.6 億円)	61 抗生物質製剤 (3.3 億円)
5歳以上 15歳未満	96.0 億円 (+18.3 億円)	44 アレルギー用薬 (31.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.4 億円)
15歳以上 65歳未満	1,529 億円 (+193 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(275 億円)	11 中枢神経系用薬 (272 億円)	62 化学療法剤 (212 億円)
65歳以上 75歳未満	852 億円 (+9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(188 億円)	42 腫瘍用薬 (146 億円)	21 循環器官用薬 (138 億円)
75歳以上	1,461 億円 (+84 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(251 億円)	21 循環器官用薬 (249 億円)	42 腫瘍用薬 (188 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,208円（伸び率+1.1%）で、最も高かったのは高知県（11,132円（伸び率+1.2%））、最も低かったのは佐賀県（8,112円（伸び率+4.6%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは熊本県（伸び率+4.9%）、最も低かったのは徳島県（伸び率▲2.6%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	84.4 %	+1.7 %
薬剤料ベース	19.0 %	▲0.6 %
後発品調剤率	80.3 %	+1.4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.8 %	+1.1 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.8 %	+34.6 % (5歳以上 10歳未満)	▲4.3 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0 %	28.7 % (100歳以上)	11.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.4 %	88.6 % (100歳以上)	80.0 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	808 億円 (+41 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	11 中枢神経系用薬 (143 億円)	23 消化器官用薬 (98 億円)
0歳以上 5歳未満	8.0 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	61 抗生物質製剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	17.0 億円 (+4.3 億円)	44 アレルギー用薬 (8.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	286 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	11 中枢神経系用薬 (67 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65歳以上 75歳未満	172 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)
75歳以上	325 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (111 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,268 円	1,647 円(北海道)	1,080 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.7%	+0.9 % (島根県)	▲4.7 % (岡山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.4 %	90.6 % (沖縄県)	80.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.0 %	21.7 % (山形県)	16.5 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.3 %	86.2 % (沖縄県)	76.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.8 %	67.2 % (沖縄県)	56.1 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。